IN THE MATTER OF Patent Application No. US 2023/1234567 A1, a [illegible] in a struruises of patent application and precuses contextual responses, authors in the [illegible] and sontesrruiur, on AI-generated patent claim; rebuttal.

CLAIM 1. A computer-implemented method for generating contextual responses, comprising:

receiving an input query;
receiving information on [illegible] in generating responses, method;
[illegible]
[illegible]
[illegible] contextual, supple[illegible] respatous, [illegible] and
equationing input them for the non [illegible] of an input query.

WHEREAS, the Examiner's Rejection under 35 U.S.C. § 103 is respectfully traversed. The cited references, Smith et al. and Jones et al., fail to disclose the specific arrangement of the attention mechanism, and he more trad of [illegible] constention of [illegible] implementation [illegible]

Validity?

Context Missing

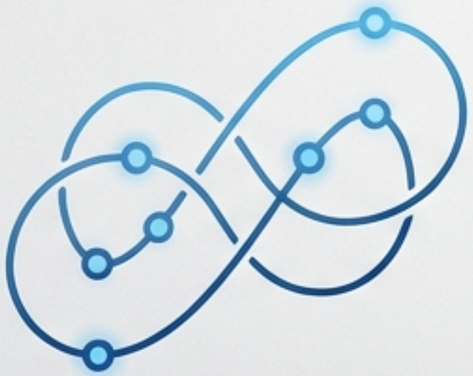
特許AIの「流暢な錯覚」に朱入れする

注目論文『PatRe』の徹底解剖と、知財実務における生成AIの現在地

「もっともらしい文章」と「法的妥当性」の巨大な隔たり

PatRe論文はAIによる完全自動化の証明ではない。現在のAIがいかに「文体は完璧だが中身は脆い」かを専門家の検証で浮き彫りにした、新しい評価の物差しである。

01. 革新性 (Innovation)



「点」の予測から「線」の対話へ。
相互作用全体の評価という進化。

02. 錯覚 (Illusion)

自動採点「9点台」が暴く、AIの流暢すぎる嘘と評価の落とし穴。

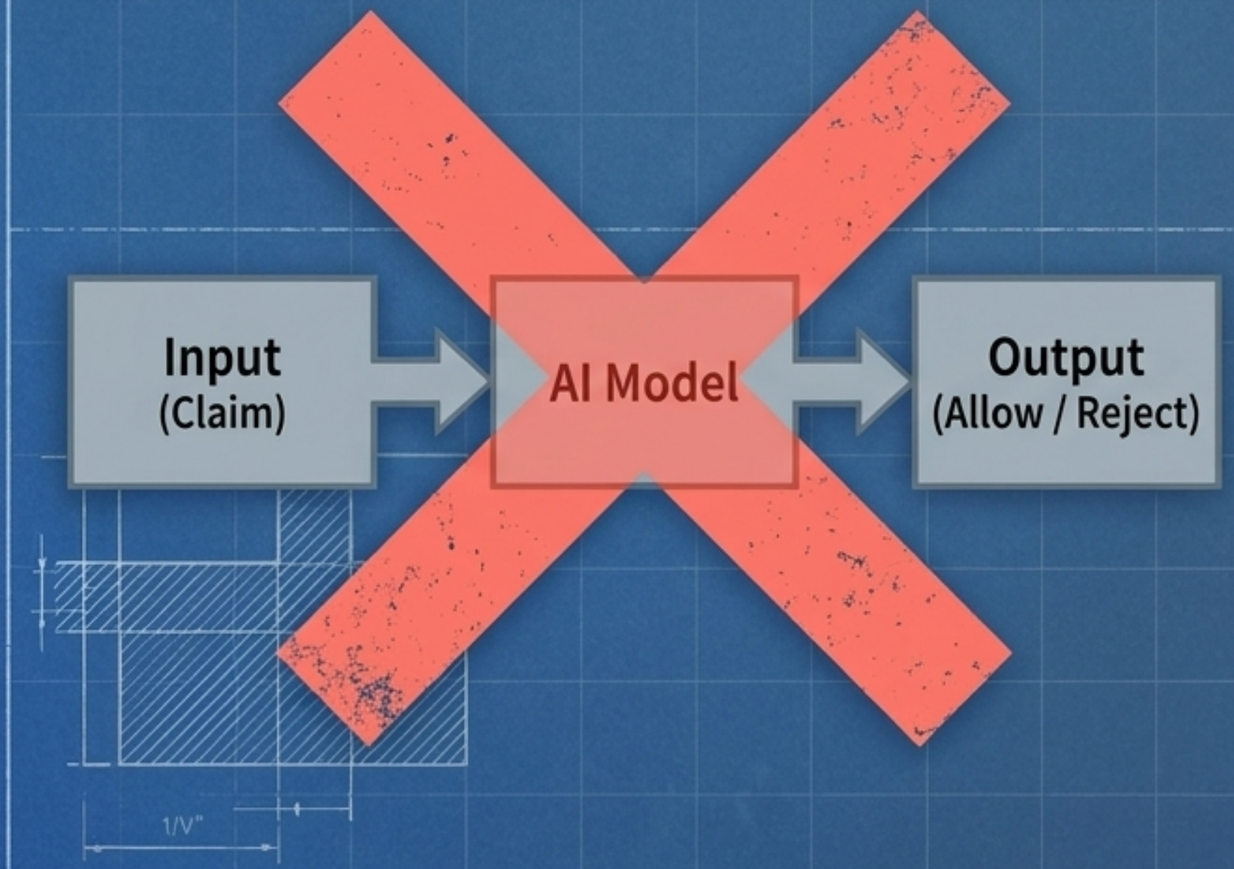
03. 処方箋 (Playbook)

実務家が死守すべき「本質」とAIへの「委譲」の境界線。

評価軸のパラダイムシフト：「点」の予測から「線」の対話へ

単発の分類タスクにとどまっていた従来研究に対し、PatReは審査過程の「動的な相互作用」全体を評価対象に据えた。

従来のアプローチ



PatReのアプローチ

4つの生成タスク：AIの「審査官」と「出願人」としての能力を測定

USPTOの実データ480件、IPC全セクションを網羅した実際の審査記録に基づく検証。

OA-DP

入力
内部知識のみ
測定
審査通知の自律生成

OA-RO

入力
実際の引用文献あり
測定
証拠に基づく理由づけ

OA-RS

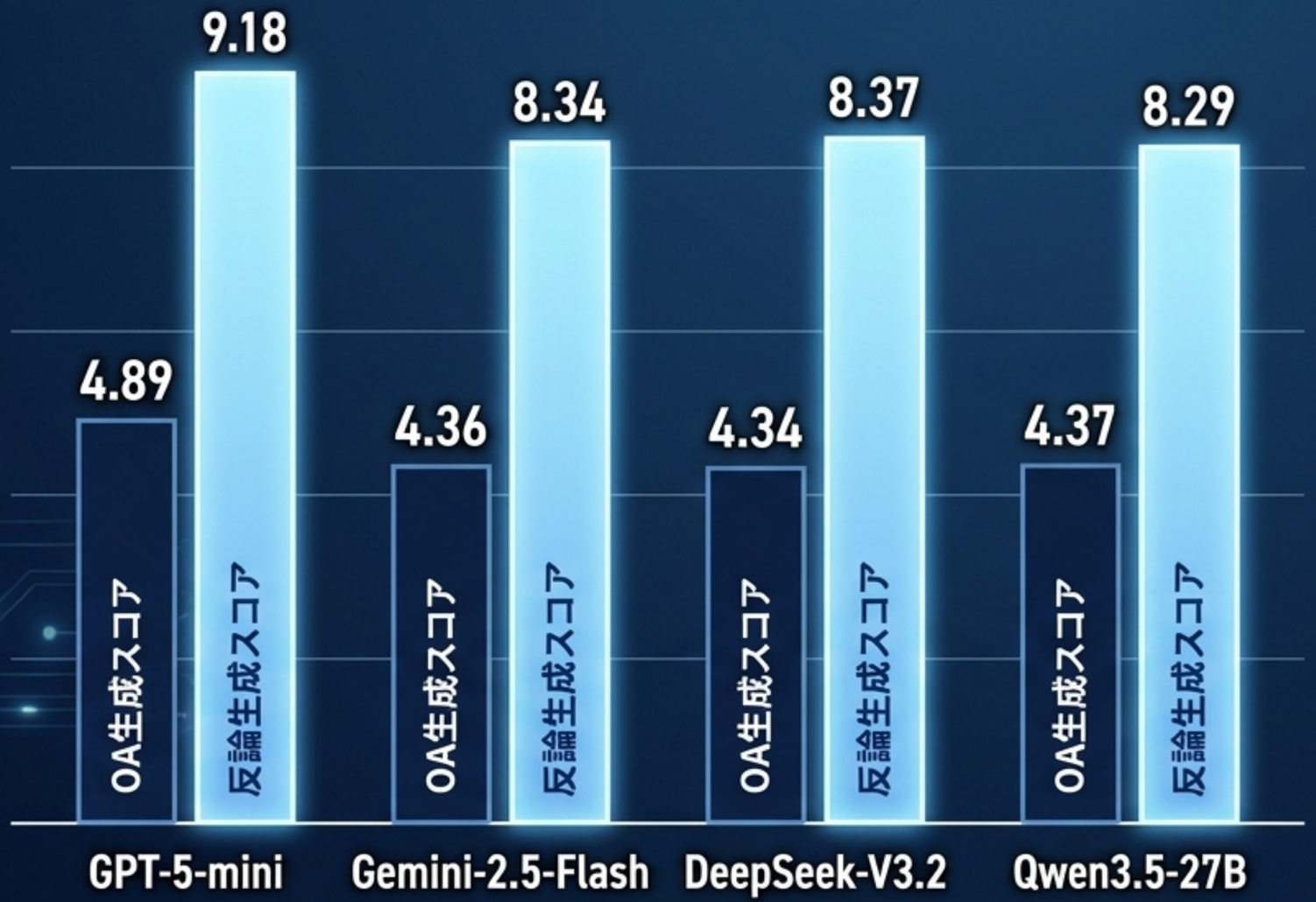
入力
検索結果の混入
測定
ノイズからの適切な文献選択

Rebuttal Generation

入力
審査履歴と証拠全体
測定
拒絶に対する技術的・法的反論

一見すると、AIは「完璧な反論」を生成できるように見える

GPT-5-mini等の最新モデルによる自動採点（LLM-as-a-Judge）では、驚異的なスコアを記録。



90.5%

Point-wise Coverage
（論点網羅率）

※GPT-5-miniによる反論の論点対応率

現実の直視：専門家の「朱入れ」が暴く真の実力値

知財専門家によるブラインド評価を実施した結果、自動採点での高得点は幻影に過ぎないことが判明。

モデル	自動採点（全体）	人手評価（全体）	妥当性（自動）	妥当性（人手）
Gemini-2.5-Flash	9.33	7.00	8.87	5.64
DeepSeek-V3.2	9.11	6.00	8.25	5.04
GPT-5-mini	~~9.18~~ 現実：6.85 6.85		8.71	5.94
GPT-5-mini	8.19	7.25	7.20	4.03
Grgr-V3.2	6.15	6.01	7.57	3.09
Gemain-V3.2	5.99	6.73	6.90	0.16
Condom-V3.2	5.21	5.83	6.07	0.42

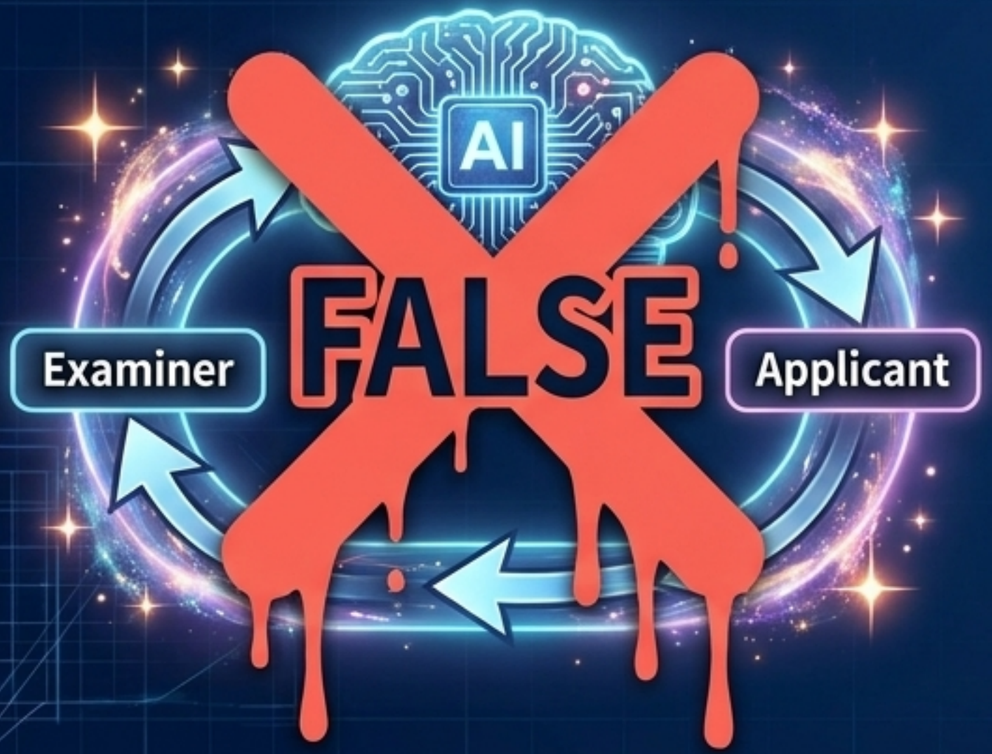
歪んだ天秤：OAと反論は同じ物差しで採点されていない

劇的な得点差は純粋な能力差ではない。採点プロンプトの非対称性が生んだスコアの錯覚。

「自律的な権利化ループ」という世間の錯覚

AIが自ら考えて特許を成立させたわけではない。実験環境で行われたのは「条件付きの単発生成」である。

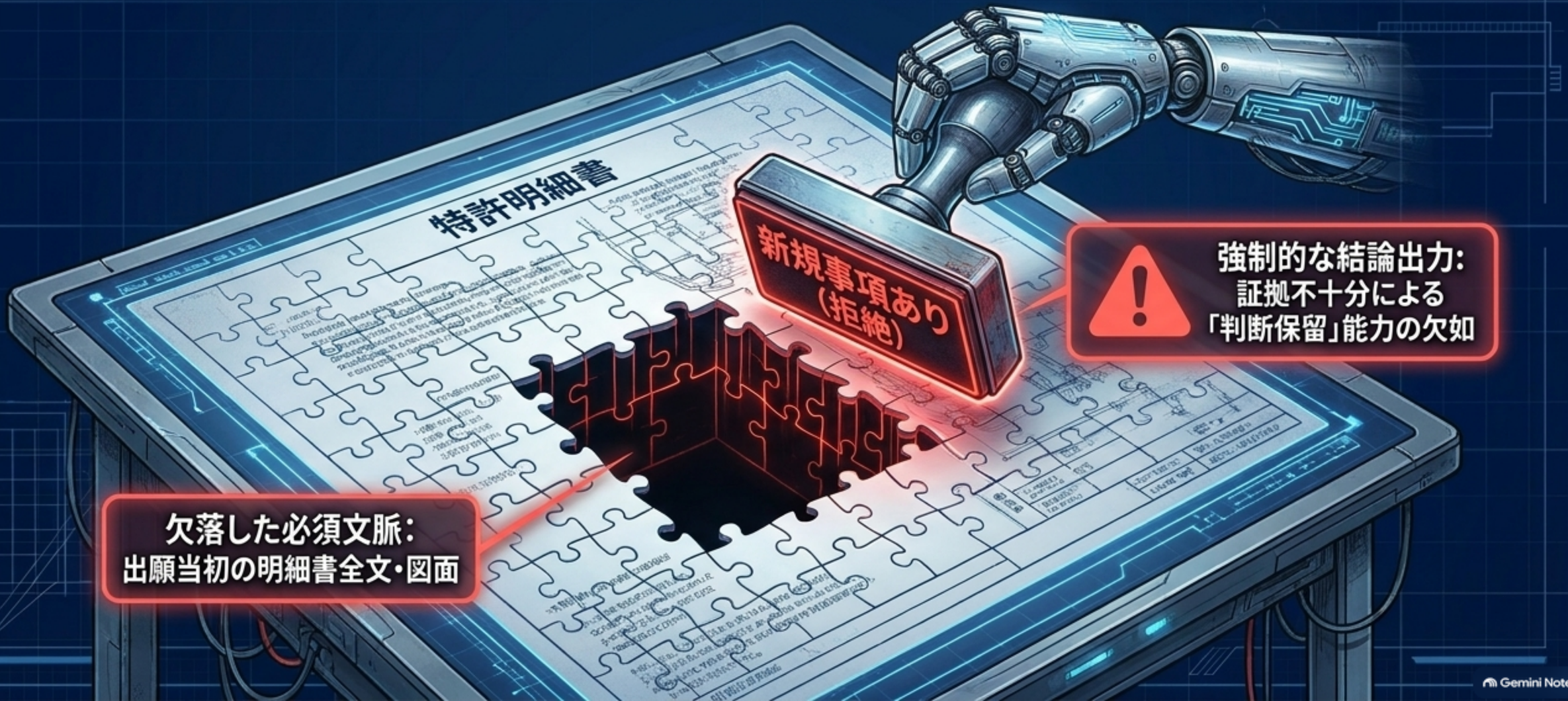
世間の誤解（Closed Loop）



実際の実験（Conditional Single-Shot）

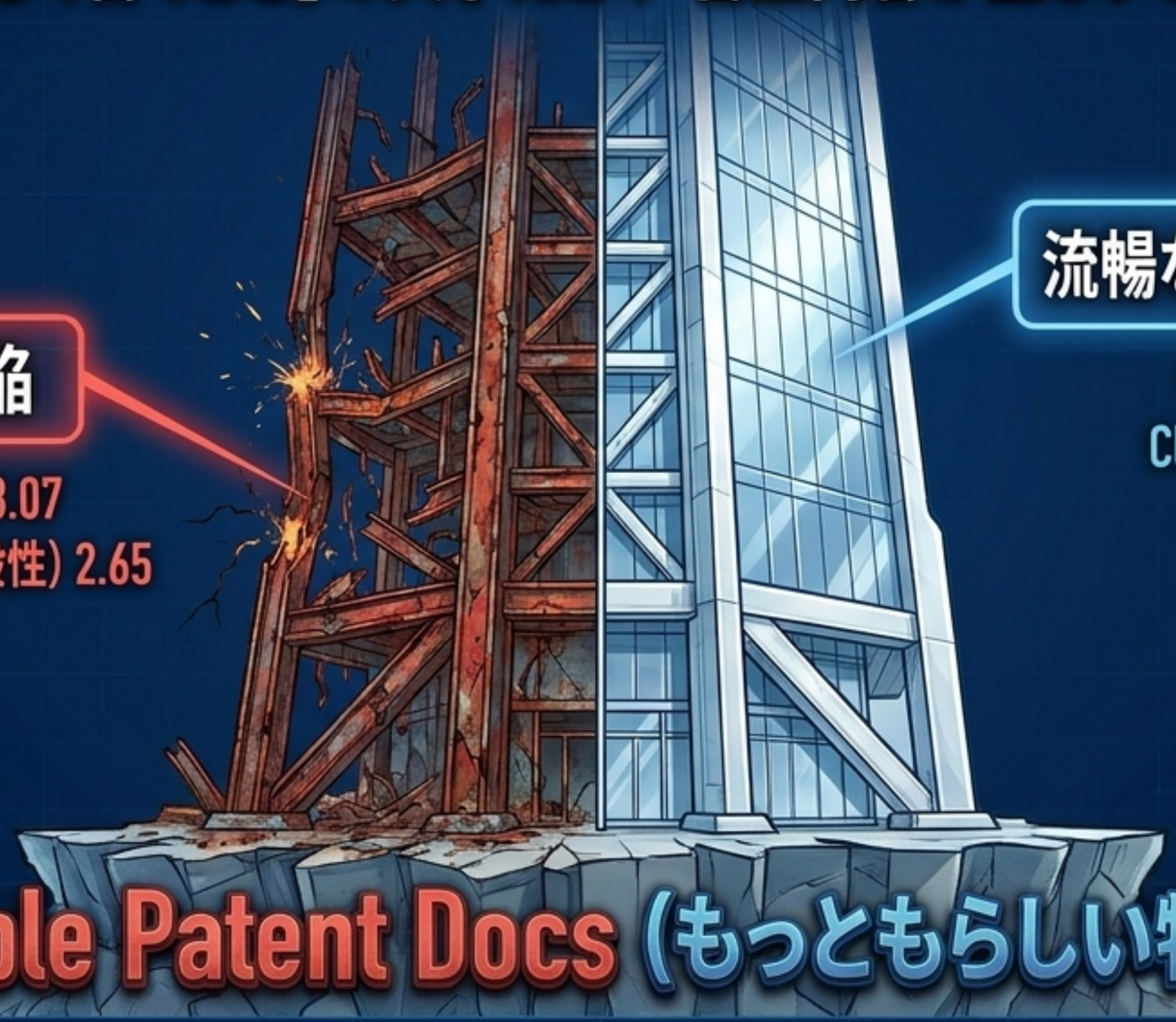
文脈剥奪モデル：見えない証拠に対する強制的な法的推論

「出願当初の明細書全文」という必須情報がプロンプトから欠落した状態で、AIは無理に結論を出させられている。



専門的な「文体」と、法的な「妥当性」の巨大な乖離

AIは「審査通知らしく書くこと」の天才だが、「審査内容が正しいこと」を意味しない。



構造的欠陥

Validity（妥当性）3.07
Constructiveness（建設性）2.65

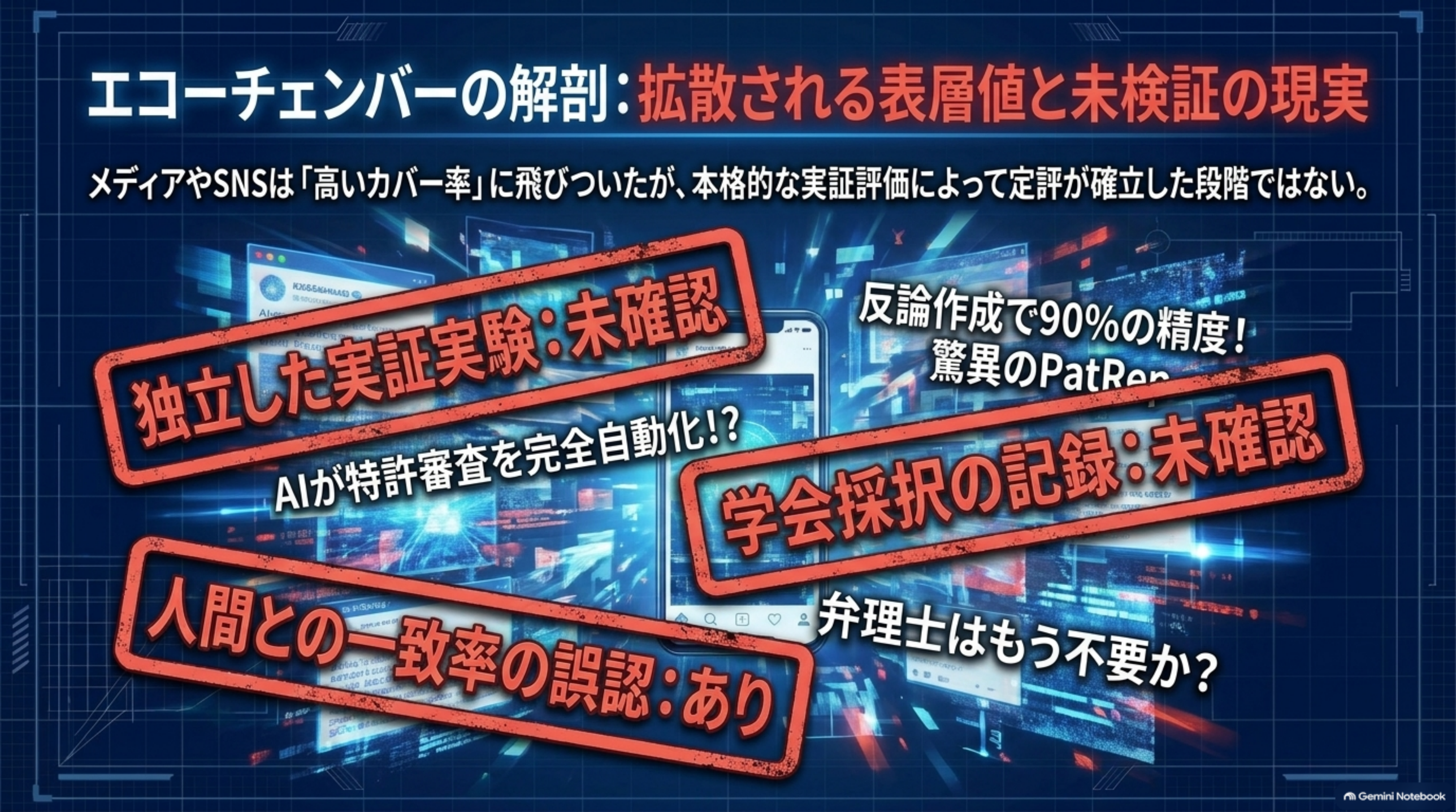
流暢な法的フォーマット

Style（文体）7.84
Clarity（明確性）7.77

Plausible Patent Docs（もっともらしい特許文書）

エコーチェンバーの解剖：拡散される表層値と未検証の現実

メディアやSNSは「高いカバー率」に飛びついたが、本格的な実証評価によって定評が確立した段階ではない。



実務導入のための「錯覚と現実」マトリクス

PatReを実務導入の根拠とするならば、生成された文書の見た目ではなく、事業上の価値を死守できるかという本質的な視点が必要。

混同しやすいもの（一見できているように見えること）	実務上、区別すべきもの（本質的な法的価値）
• 拒絶理由の各項目に文章が存在する	• 各項目に対する反論が技術的・法的に成立する
• 引用文献番号のフォーマットが正しい	• 引用箇所が実際の技術的主張を裏付けている
• 補正によって表面上の拒絶を解消できる	• 事業上有用な権利範囲を毀損せずに維持できる
• 実際の意見書に文体が酷似している	• その案件における最も適切な応答戦略である

知財AI協働フレームワーク：死守すべき境界線

「AIに全てを書かせるか」という二択から脱却せよ。
流暢さと網羅性のチェックはAIに任せ、法的な断定は人間が握る。

人間の専権領域（Strategy & Validation）

- 引用例の特徴の「非存在」の法的断定
- 出願当初開示による補正の裏付け確認
- 不要な限定の回避と戦略的判断
- 事業上必要な権利範囲の絶対的死守

The Redline（人間の介入線・責任分界点）

AIへの委譲領域（Draft & Map）

- 拒絶理由の論点一覧化と網羅的マッピング
- クレームと引用箇所の対応表作成
- 応答漏れ・形式的欠陥の自動点検
- 反論アプローチの複数案（ドラフト）提示

The Benchmark is not the finish line.

It’s the starting point for human verification.

流暢な助手に、審査官の権限を渡さない。
高得点の裏にある文脈の欠落を見極め、人間の専門性が活きる知財AIの実装を。